

音楽音響国際シンポジウム 98 報告

(ISMA'98 Leavenworth U.S.A.)

中村 勲

〒182-0022 調布市国領町 1-33-25

nakamura@ga2.so-net.ne.jp

あ ら ま し 音楽音響国際シンポジウム 98 (ISMA'98) は 1998 年 6 月 26 日夕刻から 7 月 1 日の昼まで、アメリカ合衆国 Washington 州 Leavenworth にある Sleeping Lady Conference Center で開催された。会議はアメリカ音響学会と Catgut 音響学会が共同して組織した。音楽音響のあらゆる分野にわたって、凡そ 70 篇の招待論文と投稿論文が発表された。ISMA について、開催の経緯、会議の概要、今後の開催予定を報告する。

キーワード 音楽音響、国際シンポジウム、楽器、ワークショップ

REPORT OF THE INTERNATIONAL SYMPOSIUM

ON MUSICAL ACOUSTICS '98

(ISMA'98 Leavenworth U.S.A.)

NAKAMURA, Isao

1-33-25 Kokuryo, Chofu, Tokyo 182-0022, JAPAN

nakamura@ga2.so-net.ne.jp

Abstract The International Symposium on Musical Acoustics 1998 (ISMA'98) took place at the Sleeping Lady Conference Center, Leavenworth, Washington, U.S.A. on June 26 through July 1. The meeting was organized in association with the Acoustical Society of America and the Catgut Acoustical Society. About 70 invited and contributed papers were presented, covering all areas of musical acoustics. Concerning the ISMA, a short history, an outline of this meeting and a schedule in the future are reported.

Key word Musical acoustics, International symposium, Musical instruments, Workshop

1. 開催の経緯

今回の音楽音響国際シンポジウム (ISMA) は、米国 Washington 州 Leavenworth の Sleeping Lady というリゾート地で行われた。音楽音響に関する国際的なシンポジウムは 1970 年代から、国際音響学会議 (ICA) に前後して開催されて来たが、ISMA と名付けられたのは、1989 年にドイツの Mittenwald で行われた時が最初である¹⁾。この時までには、Catgut 音響学会 (CAS) という弦楽器を主体とした国際的な音楽音響の組織に所属する開催国のメンバーが主催して行われて来た。1992 年北京で ICA が行われた時、ISMA を東京で行ったが、筆者が組織委員長として、CAS のメンバーにとらわれず、日本音響学会の音楽音響研究会のメンバーで組織委員会を構成し、CAS と共催という形をとった²⁾。以後 1995 年の Dourdan (フランス)³⁾、1997 年の Edinburgh (イギリス)⁴⁾に続いて今回の Leavenworth (アメリカ)⁵⁾でも、それぞれの国の音響学会と CAS との共催の形をとるようになった。今回はアメリカ音響学会 (ASA) と CAS のどちらも事務局を持っているので、運営は両学会の分担で行われた。

今回のシンポジウムの開催は、3 年前の Dourdan の時に決まったが、場所はアメリカ側の CAS のメンバーに一任した。この地は ICA が行われた Seattle からバスで 2 時間半の距離で、百数十名が宿泊可能であり、会議と音楽演奏も出来る施設があるということで、選ばれたようである。前年の Edinburgh は会場と宿泊施設が離れていたのも、何かと不便であったが、今回は参加者が数日間食事を共にし、朝から夜までスケジュールが一杯の会議であった。ただ遅れて申し込んだ参加者は予定人数が超過した為、Leavenworth の町のホテルから通わなければならなかった様である。

運営上の特徴は、Edinburgh の時から始まったインターネットの利用である。会議のスケジュールやアブストラクトなども次々に更新されて、ホームページで見ること出来る方式が定着したことである。また今回もアメリカの委員の外に、国際科学諮問委員なる名のもとに 13 ケ国の代表的研究者が名前を列ねた。筆者もその

一人であったが、国内で "Call for Papers" を配布する程度の事で、運営は全てアメリカの委員によって行われた。今回の参加者は 24 ケ国で、日本からの参加者は同伴者を除いて 10 人であった。

2. 会議の概要

2. 1 会場とその環境

会場の Sleeping Lady は Seattle の東約 200km で Cascade 山脈の東側に位置し、松林の中に 30 数棟の建物があり、150 人程が宿泊可能なリゾートである。百数十人を収容するチャペルシアターを主会場に当て、並列セッションとポスタセッションは別棟の会議室を使用した。ワークショップは数人乃至十数人を 1 グループにして、これらの建物の他 3 つの建物での 5ヶ所で行なわれた。このリゾートの一番はずれにある食堂の建物の裏側には広場があり、その先に小川が流れている。宿泊の建物は部屋も広々とした中 2 階のあるバス付きのログハウスであり、アメリカの西部らしい環境であった。この季節 Seattle では毎日のように驟雨がかったが、この地はさわやかな晴天が続いた。

2. 2 科学セッション

前 2 回のヨーロッパでの ISMA では、全ての論文発表を聞く事が可能な様にとの配慮で並列セッションを設けなかったが、今回はバイオリン製作者も多く参加しており、8 つのワークショップが設けられた関係で、論文発表も一部並列セッションになった。論文は招待論文 7 篇と投稿論文 57 篇の計 64 篇が論文集に載っているが、プログラムでは口頭発表 42 篇とポスター発表 26 篇となっているので、論文未提出の発表が 4 件あるものと思われる。論文は内容的に次のようである。

擦弦 13、ギターと撥弦 7、
金管 6、木管 11、
ピアノ 4、オルガン 5、
コンピュータによる音楽の分析と合成 4、
知覚と音響心理 6、
打楽器その他 8。

論文セッションは 6 月 27 日 (土) から 30 日 (火) の午前迄で、主として午前中に口頭発表、

午後に2日間ポスター発表が行われた。日本からの招待講演者はオルガン部門の吉川茂九州芸工大教授である。

論文数から見ると、前回 Edinburgh の89篇、前々回 Dourdan の85篇に較べて少ないが、ワークショップが設けられたのが今回の特徴である。

ワークショップは、次の8分野である。

バイオリン関係 4, ハンマダルシマ 1, エレクトロニクス 1, モーダル解析 1, ハンドベル演奏 1。

6月27日、28日、30日の午後と7月1日(水)の午前に行われた。

外国からの研究者の大多数は30日昼発の2台の Seattle 行バスに乗り込んだが、その後は主にバイオリン製作者が残って、ワークショップが続けられた様である。

2. 3 公式行事と各種イベント

1) 公式行事

開会は6月27日8時35分アルペンホルンのファンファーレによって始められた。実行委員による連絡事項の後、名誉会長の Hutchins 女史が開会の挨拶をただけで、すぐ招待講演に移った。

またその日の夜、コンサートの後に第1回ハッチンスメダルの授与式が行われた。CAS会長の M. Hudig 氏がメダル制定の所以を述べ、Carleen Hutchins 女史自身に、このメダルが贈られた。続いて Hutchins 女史が感謝の言葉を述べた。当日までこの事は少数の関係者以外には伏せられていて、プログラムにも載ってなかった。

2) バーベキューディナー

開会初日の夕方は食堂の裏側の広場で、ドイツ系アメリカ人のブラスバンドの演奏を聞きながらバーベキューのディナーを楽しんだ。

(Leavenworth はドイツ系アメリカ人の町である。) バーベキューの後、3年前フランスの Dourdan での ISMA の時、バイオリンとハンマダルシマでカントリーミュージックを演奏した夫妻と子息が、飛び入りで演奏と踊りを行い、西部の雰囲気を出して、楽しませてくれた。

3) コンサート

6月26日(金)の夜から29日の夜迄の4

日にわたって、毎夜色々なコンサートが行われた。第1夜はハンドベルの演奏会、第2夜は Hutchins 女史の製作したバイオリンオクテット楽器の中の何台かによる演奏会、第3夜は伝統的と革新的な両者による弦楽器の演奏会、第4夜は ISMA98 の参加者による演奏会が行われた。参加者の演奏会では、吉川茂氏の尺八の演奏に大きい拍手が続いた。小坂直敏氏(NTT基礎研究所)は白人と二人の中国人によるエーデルワイスの合唱のピアノ伴奏を行った。

3. 今後の開催予定

1999年は3月15日(月)から19日(金)迄、ヨーロッパ音響学連合とアメリカ音響学会のジョイントミーティングがベルリン工科大学で行われ、その中に音楽音響のセッションが9部門設けられているので、この年 ISMA は行われない。

2000年に ISMA をオーストラリアで行う様な予定が CAS の側から発表された事があるが、オーストラリア側で実行を引き受けるのが難しい様である。

2001年には ICA がローマで行われるので、それに引き続いて9月第2週に ISMA をイタリアで行うという事が、今回の会議の終わりに近い頃、ビラで配られた。組織委員長は CAS の国際委員の一人で、今回の会議でのイタリアからの国際科学諮問委員の D. Stanzial 氏である。

2003年は第3回 Stockholm Music Acoustic Conference (SMAC)が行なわれる予定の年であるので、ISMA は行なわれない。

2004年4月には ICA が京都で行われる予定なので、これに前後して ISMA を日本で開催する事を、イタリアでの ISMA の折に発表出来る様に、決めておく必要があろう。

文献

- 1) 中村 勲, "国際シンポジウムー音楽音響 1989," 音響学会誌 46, 189-190 (1990) .
- 2) 中村 勲, "音楽音響国際シンポジウム 1992," 音響学会誌 49, 218-219 (1993) .

- 3) 中村 勲,"1995 年音楽音響国際シンポジウム (ISMA'95) ," 音響学会誌 51,977-978 (1995) .
- 4) 中村 勲、足立整治、岸 憲史、山田真司、永井洋平,"音楽音響国際シンポジウム報告 (ISMA'95 Dourdan FRANCE) ," 音楽音響研資、14(5),61-72 (1995).
- 5) 中村 勲,"1997 年音楽音響国際シンポジウム (ISMA'97) ," 音響学会誌 54,158-159 (1998) .
- 6) 中村 勲、井戸川徹、田口友康、永井洋平、永井啓之亮、足立整治," 音楽音響国際シンポジウム 97 報告 (ISMA'97 Edinburgh UK) ," 音楽音響研資、16(7) 1-12 (1998).
- 7) 中村 勲,"1998 年音楽音響国際シンポジウム (ISMA'98) ," 音響学会誌 54,875-876 (1998) .